

<図書館資料展示>

イギリス私家版(プライベート・プレス)書籍の世界

はじめに

立教大学図書館では、学部構成や授業カリキュラムにもとづいた教育研究用資料のほか、一定の蔵書構築方針に基づいて稀覯本^{きこうぼん}や貴重書も購入しています。そのひとつに印刷・製本史に関わる図書資料の蒐集があります。

今回は、活字や製本についての美術的な観点から、イギリスで興った私家版^{しかぼん}(プライベート・プレス)の立教所蔵本を取り上げました。いずれもこれまで蒐集してきた、ケルムスコット・プレスやヴェイル・プレス、ダヴズ・プレスなどの印刷・製本工房が19世紀末から20世紀初頭にかけて製作した稀覯本^{きこうぼん}です。

立教大学図書館

展示資料一覧

1	Caxton, William, translator. <i>The Golden Legend</i> . By Jacobus de Voragine. 3 vols. (ウィリアム・カクストン訳、ヤコブス・デ・ウォラギネ著『黄金伝説』全3巻)
2	Swinburne, Algernon Charles. <i>Atalanta in Calydon</i> . (アルジャノン・チャールズ・スウィンバーン著『キャリドンのアタランタ』)
3	More, Thomas. <i>Utopia</i> . (トマス・モア著『ユートピア』)
4	Morris, William, translator. <i>The Tale of the Emperor Coustance and of Over Sea</i> . (ウィリアム・モリス訳『クースタンス帝と異国の物語』)
5	Tennyson, Alfred. <i>Maud: A Monodrama</i> . (アルフレッド・テニソン著『モード—独白劇—』)
6	Ellis, F. S., editor. <i>Syr Ysambrace</i> . (F・S・エリス編『サー・イザンブレイス』)
7	Cockerell, S. C., editor. <i>Some German Woodcuts of the Fifteenth Century</i> . (S・C・コッカレル編『15世紀ドイツ木版画集』)
8	Rossetti, Dante Gabriel. <i>Hand and Soul</i> . (Kelmscott Press) (ダンテ・ゲイブリエル・ロセッティ著『手と魂』、ケルムスコット・プレス)
9	Rossetti, Dante Gabriel. <i>Hand and Soul</i> . (Vale Press) (ダンテ・ゲイブリエル・ロセッティ著『手と魂』、ヴェイル・プレス)
10	<i>The English Bible</i> . 5 vols. (『欽定訳聖書』全5巻)

ウィリアム・モリスとケルムスコット・プレス

——理想の書物を求めて——

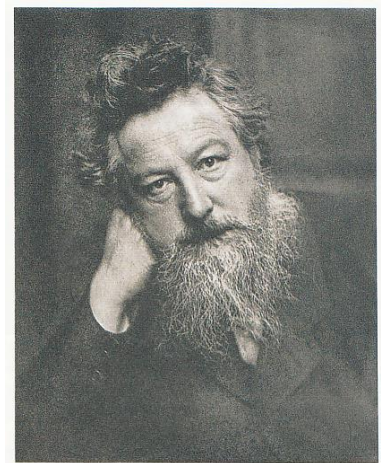
立教大学文学部英米文学専修教授 藤巻 明

詩人、美術工芸家、社会主義者として八面六臂^{はちめんろっぴ}の活躍をし、美術工芸運動（アーツ・アンド・クラフツ・ムーヴメント）を主導したウィリアム・モリス William Morris (1834-96) が人生の最後に情熱を傾けたのは、「理想の書物」を作ることだった。そのために、それまでの人生で総合デザイナーとして蓄えてきたあらゆる知識を注ぎ込んだだけでなく、印刷術の詳細を修得した上で 1891 年に私家版印刷所ケルムスコット・プレスを設立し、『輝く平原の物語』を初めとする自著やモリスお気に入りの古今のイギリス文学を中心とする新刊や復刻版書籍を平均 300 部、最大でも 600 部程度限定で印刷し販売も行なった（参考文献 1:34、4:137）。1896 年のモリス没後も 1898 年まで仲間の手で出版は続けられ、刊行数は合計で 53 部 66 冊に及ぶ。

モリスは、書物にとっての「建築」的要素に当たる用紙、インク、空間、余白、活字などが優れていれば、「装飾」などなくても書物は芸術作品になりうると考えた（参考文献 1: 147、156）。麻の透かし模様（ウォーターマーク）入り手漉き紙を用い、インクはドイツから取り寄せ、行間と字間の空白が目立たないように文字をできるだけ

密集させた。中世の書物を手本にして見開き 2 ページを基本単位と考えて、余白を内、天、外（前小口）、地の順でほぼ 20% ずつ広げてゆくよう入念に配置したのは、頁間を狭くして印刷面がつながっているように見せ、下方の余白を広く取って親指で押さえやすいようにするという見映えと実用両面への配慮からだった（資料 3、参考文献 1:38-39、162、2:492）。活字も当時流行の繊細優美を好まず、力強さと黒さを強調するために、縦線が太く横線の細いローマン体としてゴールデン活字（資料 1、8）、縦横の線が均等な太さのゴシック体としてトロイ活字（資料 2）とそれを小さくしたチョーサー活字（資料 3）の 3 種類を自ら作成した。このように凝った製本デザイン方針は 20 世紀以後の出版業界にも大きな影響を与えている。

しかし、「建築」的要素を優先しつつも、やはりモリスはデザイナーとして「装飾」への指向を抑え難く、飾り文字、縁飾りや 3 種類の印刷所の商標（ロゴ）を考案し、赤黒 2 色印刷を試み、ヴェラム装（資料 2、3、4、5、8）やハーフ・ホランド装（資料 1、6、7）などの基本的な装丁を施した上で、購入者が望めばさらに豪華な豚革装などに改装できる余地を残しておいた（参考文献 7:81）。ヴェラム装展示品の幾つかに付属する綴じ紐（資料 2、3、5）は、厚紙で裏打ちされていない表紙の皮革が外側へ反ってしまう



William Morris

ウィリアム・モリスの肖像
（1887 年フレデリック・フォー
リヤー撮影）とモリスの自署
（参考文献 5:xvi）

のを防ぐために前小口側で結んでおくという実用性のほかに、乳白色のヴェラムの下から紐の色が透けて見えることで生じる美的効果も兼ね備えていた。そのため、絹糸織り紐が赤、青、黄、緑の四色も用意された（参考文献 7:71）。

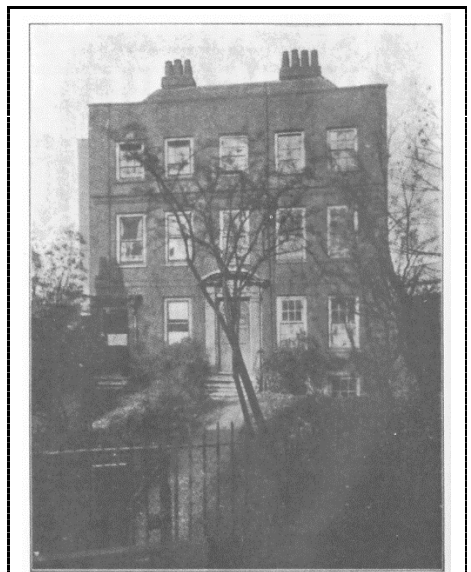
本学図書館は、印刷と製本史に関わる図書資料の蒐集を目指し、2009 年以後、上記ケルムスコット・プレスその他、その流れを汲むヴェイル・プレス、ダヴズ・プレスなど 19 世紀末から 20 世紀初頭にかけてのイギリス私家版稀覯本や貴重書の購入を行ってきた。現在の蔵書数は、ケルムスコット 14 点 18 冊、ヴェイル 1 点 1 冊、ダヴズ 1 点 5 冊に及ぶ。今回の展示により、ケルムスコットの 3 種類の活字体と 2 種類の装丁、及び、大小様々な判型を実地に見ることができるのは喜ばしい。オックスフォード大学時代以来のモリスの親友でラファエル前派の画家エドワード・バーン=ジョーンズ Edward Burne-Jones (1833-98) の美しい挿絵も見逃せない（資料 1）。また、モリスが師と仰いだ同派の中心的な画家、詩人ダンテ・ゲイブリエル・ロセッティ Dante Gabriel Rossetti (1828-82) 著『手と魂』は、ケルムスコットとヴェイルの両方から出版されており、活字や装飾の違いを比べることができる（資料 8、9）。ダヴズの 5 巻本大判聖書第 1 巻『創世記』冒頭の 2 色刷りは目にも鮮やかだ（資料 10）。

この方面の書籍蒐集が今後も継続され、いずれ、最高傑作『ジェフリー・チョーサー作品集』を含むケルムスコット版の美しい本全てが貴重書架に顔を揃える日が来ることを願ってやまない。



ケルムスコット・ハウス（東側からの外観）
（参考文献 6:142）

↑1878 年から亡くなる 1896 年までロンドン西郊ハマ
スミスのテムズ川縁アッパー・モル 26 番地に構えたモ
リスの自宅ケルムスコット・ハウス。/1891 年、この近
くの 14 番地にケルムスコット・プレスを設立した。→



ケルムスコット・プレス社屋
（参考文献 1:187）

ケルムスコット・プレス出版その他の所蔵資料

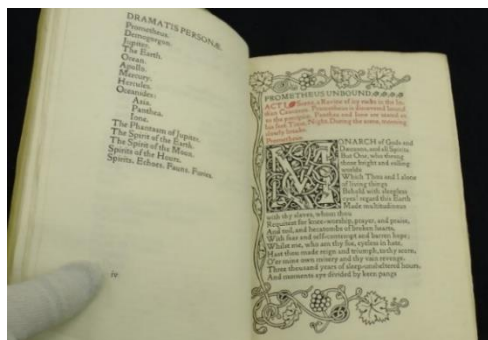
William Morris

The Story of the Glittering Plain

ウィリアム・モリス著『輝く平原の物語』

ゴールデン活字、ヴェラム装

☆ケルムスコット・プレス最初の刊本



Percy Bysshe Shelley

The Poetical Works of Percy Bysshe Shelley. 3 vols.

『パーシー・ビッシュ・シェリー詩集』(全3巻)

ゴールデン活字、ヴェラム装

↑ 第2巻 抒情詩劇『縛めを解かれたプロメテウス』登場人物一覧(左)と第1幕第1場冒頭(右)

William Meinhold; translated by Lady Jane Wilde

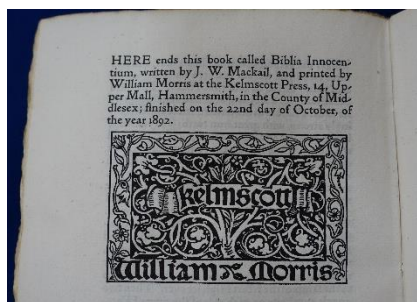
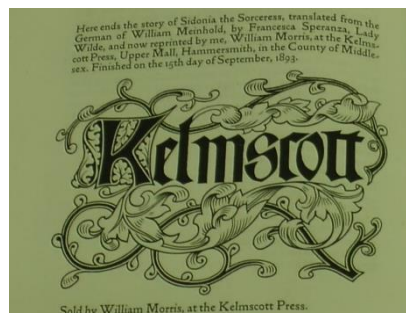
Sidonia the Sorceress

ヴィルヘルム・メインホルト著 ジェイン・ワイルド訳

『魔女シドニア』(原文ドイツ語)

ゴールデン活字、ハーフ・ホランド装(市販されなかった)

大型4折判に用いられたケルムスコット・プレスの商標→



J. W. Mackail

Biblia Innocentium

J・W・マッケイル著『無垢の書』

ゴールデン活字、ヴェラム装

←中型の8折判用ケルムスコット・プレスの商標

John Ruskin

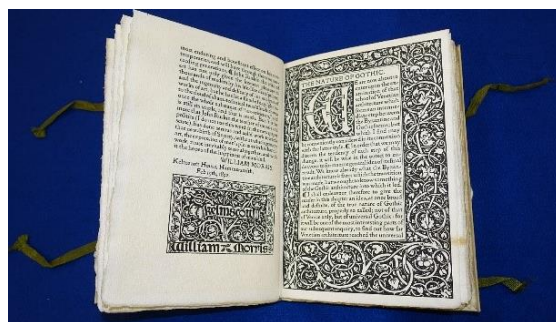
The Nature of Gothic :

A Chapter of The Stones of Venice

ジョン・ラスキン著『ゴシックの本質——

「ヴェネツィアの石」の一章——』

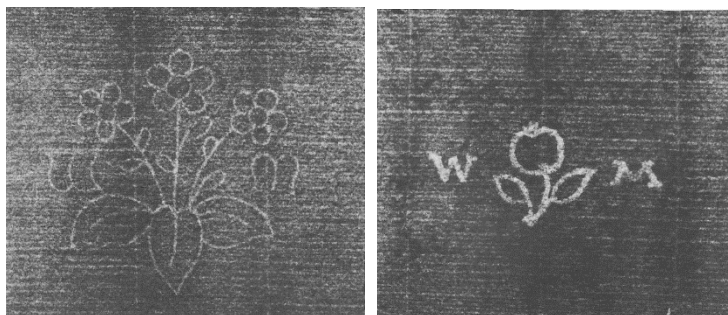
ゴールデン活字、ヴェラム装



↑ 緑の紐付きヴェラム装と8折判用商標(左下)

参考文献

1. ウィリアム・モリス著『理想の書物』ウィリアム・S. ピータースン編、川端康雄訳、晶文社、1992 [1892-96]
2. フィリップ・ヘンダースン著『ウィリアム・モリス伝』川端康雄、志田均、永江敦訳、晶文社、1990 [1967]
3. コリン・フランクリン著『英国の私家版』大竹正次訳、創文社、2001 [1969]
4. 関川左木夫、コーリン・フランクリン著『ケルムスコット・プレス図録』雄松堂書店、1982



←ケルムスコット・プレスで印刷に用いた麻の手漉き紙の透かし模様(ウォーターマーク)2種類、花と林檎。ともにモリスのイニシアル W M の文字が見える。模様は、^{スズキ}鱸と合わせて3種類あった。(参考文献 4: 46-47 の間にある図版集)

5. ウィリアム・S. ピータースン著『ケルムスコット・プレス——ウィリアム・モリスの印刷工房——』湊典子訳、平凡社、1994 [1991]



←ケルムスコット・プレス最大判型の2折判『ジェフリー・チョーサー著作集』だけに用いられた商標(参考文献 5: xiii)

6. 京都国立近代美術館ほか編『モダンデザインの父ウィリアム・モリス』NHK 大阪放送局ほか、1997
7. 貴田庄著『西洋の書物工房——ロゼッタ・ストーンからモロッコ革の本まで——』芳賀書店、2000

※上記は出版の古い順。翻訳は最後に括弧で原典の出版年を指示。

※1の原典出版年はモリスの文章の執筆年であり、編著自体は1982年刊。

※3と4のフランクリンは同一人物だが、名の表記はそれぞれの書籍に従っている。

